

Title	経済的進化ト人口法則(一)
Author(s)	米田, 庄太郎
Citation	経済論叢 (1915), 1(4): 596-604
Issue Date	1915
URL	https://doi.org/10.14989/126909
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷一第

論說

● 收益ト生産費トノ關係

● 專賣ト戰後財政

● 經濟學認識論ノ若干問題(二卷)

雜錄

● 危險分散主義ノ原則

● 經濟主義ニ就テ

● 英吉利ノ農政問題(二卷)

● 享保年間ノ米價調節(二卷)

雜報

● 經濟的進化ト人口法則(二)

● 戰爭利得稅新案

● 獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新說

● 英國ノ戰費ト經濟

● 獨逸ノ植民の運動ノ回想

● 相續稅ト家族制度

● 本多利明ノ著書ニ就テ

● こんらーど教授逝ク

法學博士 河上 肇

法學博士 小川郷太郎

博士 左右田喜一郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學士 本庄榮治郎

講師 米田庄太郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 神戸 正雄

助教授 河田 嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 神戸 正雄

法學士 本庄榮治郎

助教授 河田 嗣郎

雜報

經濟的進化ト人口法則(一)

講 師 米田庄太郎

ふいりふぼ、かゝるり氏ハ近頃伊太利社會學評論ニ於テ「獨逸ノ經濟的進化ト人口法則」ト題スルカナリノ長論文ヲ發表セラレテ居ルガ、其所論中ニハ余ノ未ダ注意セザリシ方面ヨリ余ノ社會學ノ理論ヲ確ムルガ如キ處モアリテ、余ハ一讀ノ際大ニ興味ヲ感ジタカラ、茲ニ其ノ大要ヲ譯スルコトトシタノデアアル。

該論文ハ七節ニ分タレテ居ルガ、併シ各節ニハ別ニ題名ハ附ケラレテ居ラズ、且ツ其所論ハカナリニ錯雜シテ居ルカラ、余ハ簡明ニ同氏ノ趣意ヲ表示スル爲メニ、自分ノ考ヘニ從フテ別ニ節ヲ分カチ、且ツ各節ニ題名ヲ附ケルコトトシタノデアアル。

(一) 人口ノ増加ニ當リテ工業化ノ發達、及ビ國外移住ノ減退

夫レ現代ニ於ケル獨逸ノ發展ハ實ニ驚ク可キモノデアアルガ、吾人ハ之ヲ考察スルニ當テまるさすノ人口説ノ謬妄ヲ尤モ明ラカニ理解スルコトガ出來ルノデアアル。獨逸現代ノ發達ハ畜二人ノ増加ヲ危險視スルノ謬妄ナルヲ證明スルノ

ミナラズ、更ニ人口ノ大ナル増加コソ實ニ廣大ナル經濟的發達ヲ成就シ、迅速ニ富ヲ増進セシムル、必要手段ナルコトヲ證明シテ居ルノデアアル。

今獨逸ノ人口ハ千八百八十八年(四千四百萬人)ヨリ千九百十三年(六千六百萬)ニ至ル間ニ於テ千八百萬人餘ノ増加ヲ示シテ居ルガ、然ルニ之ニ對シテ獨逸ノ富ハ同ジク千八百八十八年(尤トモ少ナク見積ツテ千八百六十億マール)ヨリ千九百十三年(二千二百億マール)ニ至ル間ニ千二百四十億「マール」ノ増進ヲ示シ、而シテ其増進ノ割合ハ人口増加ノ割合ヨリモ一層大ナルコトヲ見ルノデアアル。此ノ如ク現代ノ獨逸ニ於テハ人口ノ増加ト富ノ増進トガ相伴フテ進ンデ居ルノデアアルガ、吾人ハ之レト同時ニ又國外移住ノ甚ダ減退セルコトヲ見ルノデアアル。而シテ此等ノ傾向ト相伴フテ更ニ工業化ノ大ニ發達シテ居ルコトヲ見ルノデアアル。要スルニ獨逸現代ノ發達ニ於テ吾人ハ人口ノ増加ト富ノ増進ト工業化ノ發達ト國外移住ノ減退トノ四傾向ガ相伴

* (Filippo Carli, L' Evoluzione economica della Germania e la legge di popolazione, Rivista Italiana di Sociologia, Settembre-Dicembre, 1914)

フテ行ハレテ居ルコトヲ見ルノデアル。換言スレバ現今ノ獨逸ニ於テハ人口ガ増加シ、富ガ増進シ、工業化ノ發達スルト同時ニ國外移住ガ大ニ減退シテ居ルノデアル。併シ此ハ單ニ現今ノ獨逸ニ於テノミ現ハレテ居ル偶合の現象ニ過ギナイノデアルガ。又ハ他國ニ於テモ現ハレテ居ル現象ニシテ且ツ其ノ間ニ眞正ナル因果關係ヲ含ムモノデアルカ。

目ヲ轉ジテ他國ノ狀態ヲ觀察シテ見ルニ、吾人ハ英國ニ於テモ亦同様ノ現象ヲ發見スルノデアル。此國ニ於テモ人口ノ増加ト富ノ増進ト工業化ノ發達ニ伴フテ國外移住ハ大ニ減退シテ居ルノデアル。然ルニ之レニ反シテ露西亞ノ如キ國ニアリテハ人口ノ稀薄ナルコトト富ノ増進ノ遲緩ナルコトト工業化ノ幼稚ナルコトニ伴フテ國外移住ノ盛カンニ行ハルルコトヲ見ルノデアル。是レツマリ人口ノ増加、富ノ増進及ビ工業化ノ發達ハ國外移住ノ減退ヲ伴フモノデアルト云フ事ヲ消極的ニ證明スルモノデアル。更ニししりーナゾニ就テ觀察スルト、人口ガ増加シテモ

工業化ガ發達セザルトキハ富ハ増進セズ、又國外移住ハ盛カンニ行ハルルコトヲ發見スルノデアル。且ツ獨逸其物ニ就テ見ルモ、工業化ノ發達スル以前ニアリテハ人口ハ増加シテモ富ハアマリニ増進セズ、而シテ國外移住ハヤハリ盛カンニ行ハレテ居ツタノデアル。ソレデ今此等ノ事實ヲ合セテ考ヘテ見ルト、今日獨逸ヤ英國ニ於テ見ルガ如ク、人口ノ増加、富ノ増進、工業化ノ發達及ビ國外移住ノ減退ノ四者ノ相伴フコトハ決シテ單純ナル偶合ニアラズシテ其間ニ眞正ナル因果關係ガ存在スルト思ハレルノデアル。要スルニ人口ノ増加ト富ノ増進ト國外移住ノ減退ノ三者ハ工業化ノ發達ノ函數ニシテ、之レニ依屬スルモノ、又之レガ結果トシテ現ハルルモノデアルト考ヘルコトガ出來ルノデアル。然ラバ此ノ事實ハ人口法則ノ上ニ如何ナル光明ヲ投下スルカ。吾人ハ此事實ヨリシテ人口法則ニ付テ何事ヲ學ビ得ルカ。

(二) 人口法則ノ概念トベクハ、先見
先ヅ第一ニ考フ可キコトハ、全體人口法則ナ

ルモノハ存在スルヤ否ヤト云フ問題デアル。而シテ之レガ答解ハ根本的ニ法則ノ概念ニ依テ定マル。或ル人々ハ法則トハ現象ノ一様性或ハ齊一 uniformity デアルト考ヘテ居ル。此クテはれどハ「人間ノ行動ハ齊一ヲ現ハス、而シテ只此性質アルニヨツテ科學的研究ノ對象トナルコトガ出來ルノデアルガ、此齊一ガ即チ法則ト稱セラレルノデアル」ト云フテ居ル。此ノ法則概念ハ明ラカニ靜的概念デアル。而シテ人間ノ行動、否ナ

結局ハ生及ビ世界ノ全體ニ就テ抱カルル靜的概念ヲ根柢トシテ立テラレタルモノデアル。若シ實在ヲ靜的ニ觀念シ、例ヘハ此等ノ事物ハ其等ノ他ノ事物ト異ナツテ居ルトカ、又ハ其等ノ他ノ事物ニ均シトカヲ見定メテ、其ノ間ニ一定ノ關係ヲ求メルトスレバ、其ノ場合ニ吾人ノ發見スルハ明ラカニ靜的關係デアル。茲ニ左ノ如キ事物ノ二系列ガアルトスル。

- I. 2. 3. 4. 5. 6.
I. 2. 4. 8. 16. 32.

前系列ヲ生存手段ト稱シ、後系列ヲ人口ト稱シ、

後系列ハ前系列ヨリ異ナツテ居ル、即チ前系列ハ算術級數的ニシテ後系列ハ幾何級數的デアルト見定メル。而シテ吾人若シ兩者ノ間ニ一定ノ關係ヲ發見スルトセバ、其ノ關係ハ自カラ靜的ナラザルヲ得ナイ。即チ吾人ハ茲ニ一ノ靜的法則ヲ發見スルノデアル。

併シ吾人が事物及ビ世界ヲ觀念スル他ノ見地ガアル。夫レ具體的實在ニ於テハ完全ナル靜ハアリ得ナイ。蓋シ生ハ本來動デアルカラ、完全ナル靜ト云ヘバ生ノ否定ヲ意味スルカラデアル。事實ヤ事物ハ動キツツアルガ爲メニ有ルノデア。而シテ吾人若シカカル動的的事物概念ヲ抱クトスレバ、事物間ノ關係ニ就テモ亦動的的概念ヲ立テネバナラス。事物ハ常ニ動キツツアルモノトスレバ、彼等ノ關係モ亦常ニ動キツツアル可キモノデアル。併シ吾人ハ又事物關係ノ不斷的變動ニ於テ何等カノ齊一或ハ一種ノ「リズム」ノアルコトヲ認メルコトガ出來ル。而シテ吾人が此ノ齊一或ハ「リズム」ヲ發見シ得タルトキニ茲ニ一ノ法則ヲ發見シタト云フコトガ出來ル。此

ノ法則ハ云フマデモナク一ノ動的法則デアル。
尙ホ前ト同ジ左ノ二系列ヲ畫キ、

A 系列—1, 2, 3, 4, 5, 6, ……………
B 系列—1, 2, 4, 8, 16, 32, ……………

BノIガ常ニAノIト關係ヲ保チツツ動イテ居
ルト見做スト、BノIガ2トナルトキニAノI
ガ 2^{n-1} トナルト想像スルコトガ出來ル。而シ
テ此ノAノ 2^{n-1} ハ又常ニBノ2ト關係ヲ保チ
ツツ動イテ居ルノデアルカラ、今度ハAノ 2^{n-1}
ガBノ2ノ上ニ反動シテ之ヲ4トナラシメ、更
ニBノ4ガ又Aノ 2^{n-1} ノ上ニ反動シテ之ヲ
 $2^{n-1}+3$ トナラシムル。此ノ如クニシテA、Bノ
二系列ガ常ニ相互ニ動反動シツツ進行スルモノ
ト見ルト、此ノ場合ニ其ノ $2^{n-1}+3$ ……………トハ
何ンデアルカラ知ルコトガ問題デアル。而シテ
吾人若シ之ヲ發見シ得タトスレバ、是レ此等二
系列ガ相互ニ影響シツ、變動シ行ク其ノ様式ヲ
發見シタノデ、ツマリ彼等ノ變動性ノ「リズム」、
即チ法則ヲ發見シタコトナルノデアル。若シ
此ノ場合ニ一ノ系列ヲ人口ト稱シ、他ノ系列ヲ

生産ト云ヘハ、茲ニ吾人ハ一ノ人口法則ヲ發見
シタコトナルノデアル。

併シ余輩ハ本論文ニ於テカカル發見ヲ試ミヤ
ウトスルノデハナイ。是レハ余輩ガ本論文ニ於
テナシ得ルトハ異ナレル研究ヲ要求スルモノデ
アル。ソレデ余ハ茲ニハ單ニ上ニ述ベシガ如キ
獨逸現代ノ經濟的發達ノ要素ハ人口法則問題ノ
上ニ如何ニ重要ナル光明ヲ與ヘルモノデアるか
ヲ論證セントスルダケデアル。

今獨逸現代ノ發達ガ吾人ニ呈供スル廣大ナル
材料ヲ調べテ行クト、余輩ノ心ハ自カラ偉大ナ
ルべくかりあり憶ヒ起スノデアル。彼ハまるさ
ずニ先タツテ既ニ人口問題ニ關スル一見解ヲ立
テテ居ツタノデアルガ、其見解ハ近代的事實ト
輒近ノ學理ニヨリテ甚ダ美事ニ確メラレテ居ル
ト思ハレルノデアル。彼ハ其著 *Elementi di*
Economia politica, Capo II, § 24 ノ中ニ左ノ如
ク述ベテ居ル。

人口ノ増加ハ勞働ヲ增加スル。蓋シ常ニ増進シ行ク生存ノ
必要、及び其ノ生國ニ生活スル人々ニ對シテ甚ダ貴重ナル又

殆ント破滅サレ難キ習慣ハ總テノ方面ヨリ彼等ノ上ニ働キ、而シテ若シ其ノ國ノ政治ガ劣惡ニシテ彼等ノ元氣ヲ喪亡セシメ或ハ彼等ヲシテ遊惰ニ陥ラシメ、或ハ國外移住ヲ餘儀ナクサセルガ如キモノニ非ズバ、彼等ヲ激勵シテ一層確實ナル生活手段ヲ獲得セント努力セシムルニ至ルカラデアル。……人口ノ大増加ガ若シ勞働分量ノ増加ノ結果ニアラザルトキニハ國民ノ負擔トナリ得ル。蓋シ慣習無爲ナル餘分人口ノ食物ハ有用人口ノ口ヨリ奪ハレルカラデアル。併シ人口ハ如何ニ大ナルニセヨ、若シ勞働分量ノ増加ノ結果デアルトキハ夫レ自身ニ於テ常ニ有益デアラデアラフ。蓋シ其場合ニハ人口ノ數ト共ニ生存手段及ビ各個人ノ幸福ハ増進スルカラデアル。

右ノ言葉ニヨリテ吾人ハべくかりあハ人口法則ニ付テ一ノ動的概念ヲ立テテ居ツタコトヲ見ルノデアアル。彼ハ生存手段ト人口トノ間ニ二重ノ關係ガ存在シ、而シテ此ノ關係ニヨツテ兩者ハ相互的ニ或ハ原因トナリ或ハ結果トナルモノナルヲ認メタノデアアル。サレバ彼ハ人口ノ増加ハ當ニ恐ル可キモノデナイト考ヘタバカリデナク、更ニ喜ブ可キモノデアアルトモ考ヘタノデアアル。蓋シ人口ノ増加ハ生産ノ増進ヲ大ニ獎勵スルモノト觀念シタカラデアル。而シテ彼ハ左ノ如クニモ論ジテ居ル。

歴史ノ教ニル處ニヨレバ野蠻人民ニ於テハ人口ハ常ニ稀薄デアアル。カノ北蠻ノ移住ハ彼等ノ人口ノ甚大ナリシコトヲ證明スルヨリハ寧ロ耕作サレタル自然ヲ掠奪センガ爲メニ破壊サレタル自然ヨリ逃ケ出セル蠻民ヲ示スモノデアアル。Id. Cap. III, § 37.

併シべくかりあノ時代ヨリ考ヘテ、彼ハ此問題ノ全體ヲ完全ニ理解スルコトノ出來ナカツタノハ敢テ怪ムニ足ラス。彼モ當時ノ思想ニ支配サレテヤハリ生存手段ハ土地以外ヨリ得ラルルコトハ出來ナイト云フ前提ヨリ出發シテ居ル。故ニ彼ノ人口說モヤハリまるさすノ夫レト同ジク一ノ重農主義的人口說 *una teoria fisiocratica de Iipopolazione* デアルノデアアル。サレド彼ガ人口ト生存手段トノ關係ヲ動的ニ觀念シ、人口ノ動的法則ヲ立テタコトハ確カニ彼ノ卓見デアアル。然ルニまるさすハ只靜的法則ヲ説イタダケデアアル故ニ彼ノ法則ハ具體的現實生活ニ當テハマラナイノデアアル。

(三) 人口法則ノ動的概念ト最近ノ科學及ビ哲學
余ハべくかりあノ見解ハ哲學及ビ生物學上ノ最近ノ學說ニヨツテ立派ニ確カメラレテ居ルト

思フ蓋シ彼ノ見解ハ最近ノ發見ニヨツテ生ノ法則ト考ヘラレルモノ、即チ征服或ハ勝利ノ法則 *l'age del superamento* ト稱ス可キモノニ結び付ケテ之ヲ説明スルコトガ出來ルカラザアル。生ノ法則ハ順應ノ法則ニアラズシテ勝利或ハ征服ノ法則デアアル。細胞ヨリ有機體、下等有機體ヨリ高等有機體、生物學の個體ヨリ社會ニ於ケル簡體、簡人ヨリ國民ニ至ルマデ一切ノ生物、否ナ恐クハ一切ノ宇宙の實在物ハ此ノ法則ニ支配サレテ居ルノデアアル。

絕對的均衡ノ原則ハ動反動ハ相均シト云フ公式ニ於テ尤モヨク表ハサレルデアアル。併シ此原則ハ絕對的ニ靜的ナルモノデアアルカラ一切ノ運動、即チ生ヲ否定スルコトトナル。生ノ有ル以上運動ノ行ハルル以上ハ、其處ニ不均衡ガアラネバナブヌ。一定ノ簡人、或ハ細胞、或ハ有機體ハ宇宙ノ總テノ他ノ部分ノ一切ノ作用ヲ受ケルモノデアアル。モットモ此等ノ作用ノ多クハ相互ニ相殺シテ其簡人或ハ細胞或ハ有機體ニ到達シナイ。サレド又之レニ到達スルモノモ少ナシナイ。

而シテ吾人ハ其ノ到達シタル作用ヲ以テ其ノ瞬間ニ於ケル其ノ簡人或ハ細胞或ハ有機體ニ對スル唯一ノ外來的勢力ト見做スコトガ出來ル。此ノ外來的勢力ハ其ノ作用ニヨリテ其ノ簡人或ハ細胞或ハ有機體ヨリ惹起スル反動ノ勢力ヨリモヨリ少ナルカ又ハヨリ大ナルカ又ハ之レト均シキカノ何レカデアリ得ル。而シテ若シ之レト相均シキトキハ、其處ニ何等ノ運動ハ起ラナイ。併シ若シ之レヨリモヨリ大ナルトキハ、其ノ實在物ハ漸次ニ其特有ノ形體ヲ失ナヒ、遂ニハ瓦壞スルニ至ルデアラウ。サレド若シ之レヨリモヨリ小ナルトキニハ、其實在物ハ新シキ地位ヲ占メ、新シキ形質ヲ獲得シ、新シキ形體ノ方ヘ進化するデアラウ。此クノ如クニシテ物ノ退歩ト停滯ト進歩トカ起ルノデアアル。要スルニ退歩、停滯及ヒ進歩ハ總テ外來的勢力ト實在物ノ反動的勢力トノ關係ニヨツテ定マルモノデアアル。若シ兩者ノ關係ニ於テ何等ノ殘餘力モ存在シナイトキハ其實在物ノ停滯トナル。而シテ若シ殘餘力ガ其ノ實在物ニトツテ負號的ノモノデアルトキ

ニハ退歩ガ起リ、正號的ノモノデアルトキニハ新シキ形體ヘノ進歩カ起ツテクルノデアアル。併シ其ノ正號的殘餘力ナルモノハ結局實在物ノ内部の勢力ニヨツテ決定サレルモノデアアルコトヲ認ムルニ非ズハ、吾人ハ之ヲ説明スルコトハ出來ナイ。要スルニ實在物ノ内部の勢力ガ外來の勢力ヨリモヨリ強ク働クトキニ茲ニ正號的殘餘力ガ生ジ、而シテ之レニヨツテ内部の勢力ハ征服的或ハ勝利の勢力ノ形ヲトルノデアアル。吾人若シ世界ニ前進的運動ガアルト信ズレバ、世界ニ於ケル前進的運動ノ總計ハ後退的運動ノ總計ヨリモヨリ大ナルコトヲ信ゼネバナラス。ツマリ世界ニ於ケル正號的勢力ノ總計ハ負號的勢力ノ總計ヨリモ大ナルコトヲ認メネバナラス。換言スレバ征服的或ハ勝利の勢力ハ世界ニ威ヲ振フテ居ルコトヲ認メネバナラス。此クテ征服或ハ勝利ノ法則ハ生ノ法則トシテ認メラルルコトトナルノデアアル。

以上演繹的ニ到達シタル論結ハ生物學ノ領分ニ於ケル軌近ノ研究ニヨリテ尤モ正確ナル歸納

の證明ヲ與ヘラレテ居ル。自然陶汰説ニ致命的の大打擊ヲ加ヘタルでふりーす De Vriesノ研究ニ最少有機體ガ外來ノ刺激ニ反動シテ起ス運動ノ如何ニ大ナル部分ガ常ニ單ナル器械的自動の運動ニ非ザルカヲ證明セルびねー Directノ最少有機體ノ心理生活ニ關スル研究、動向説 Fromanoノ器械主義的理論ニ反對シテ、單細胞有機體及ビ復細胞有機體ノ反動ガ有機體ノ内部の勢力ニ依テ定マルコトヲ證明セルせんじんぐ Jennings及ビぼーん Bohnノ研究、總テ此等ノ研究ハ生ハ環境ニ對スル受働的順應ノ力ニヨリテ保持セラレ發達スルモノデナクシテ、有機體ノ内部の勢力、環境ノ一切ノ作用ニ對シテ征服的反動ヲ起シ得ル内部の勢力ノ力ニヨリテ保持セラレ發達スルモノデアアルコトヲ明ラカニ證明シテ居ルノデアアル。

各生活機能ノ典型ヲ表ハス細胞ノ生活ニ關スル驚ク可キ近代的研究ハ、啻ニ生物學ノ領分ニ於テノミナラス、又哲學ノ領分ニ於テモ尤モ強キ光明ヲ投ジタノデアアル。此クテ今ヤ世界觀ハ

根本的ニ變動シテ來タ。こゝに Coppey かるだ
ーウ (Caldenwood) ハ細胞ハ環境ノ作用ニ對
シテ單ニ受働的ニ反動スルバカリデナク、又攻
撃的體度ヲトツテ反動スルモノナルヲ證明スル
無數ノ事實ヲ蒐集シテ居ル。單細胞有機體例へ
ハ極微ナル「アミバ」ノ如キモ外界ノ一部分ヲ占
有セント勉メテ居ル。此ノ生レツキノ又絶對的
ニ説明シ難キ傾向ハ細胞ノ營養ヲ決定シ、故ニ
又其ノ生長ヲ決定シ、更ニ間接ニハ其ノ生殖ヲ
モ決定スルノデアル。此クテ細胞ト世界トノ間
ニ一種ノ鬭爭ガ成立スル。細胞ハ惰性ノ力ニヨ
リテ自己ヲ維持スルニ足ルタケ世界ヲ占有セン
トスルガ、然ニ世界ハ細胞ヲ攪亂スル外來的要
素トシテ其ノ上ニ作用スルノデアルカラ、兩者
ノ間ニ自カラ鬭爭ガ行ハレテ來ルノデアル。而
シテ細胞ガ外界ノ作用ニ打ち勝ツニ足ル反動ヲ
起スコトガ出來ルトキニ之ヲ吸收シ攝取シテ自
カラ生長スルノデアル。要スルニ細胞ハ自己ヲ
維持スル爲メニ自カラ發達セザルヲ得ナイノデ
アル。サレバ營養ハ外來刺激ニ對スル反動ノ殘

餘力デアルト云フ可キモノデアル。然ルニ生殖
ハ營養ニ依存スルモノデアルカラ、生殖モ亦間
接ニ反動的殘餘力ニ依存スルコトトナルノデア
ル。此クテ有機界ハ結局内部ヨリノ反動ガ環境
ノ作用ニ打ち勝ツテ擴大スルニ非ズハ、或ハベ
るぐそんノ云フガ如ク生ノ飛躍ナルモノガ存在
スルニ非ズハ、ツマリ征服的勝利的勢力ガ存在
スルニ非ズバ、自カラ保持スルコトハ出來ナイ
ノデアル。生ハ環境ト箇體ノ内部の勢力トガ相
互ニ他ヲ征服セントスルヨリ成立スル可動的均
衡、「リズム」作用ヲ通ジテ維持セラレ發達スル
ノデアル。併シ此ノ「リズム」作用ニ於テ其原動
力タルモノハ常ニ生其物デアル。環境ハ只生ノ
運動ガ突キ當リ又順應セネバナラヌ條件ヲ定メ
ルニ過ギナイノデアル。生ハ如何ニ其ノ環境ニ
依存スルニセヨ、常ニ其ノ環境ヨリハ一層大ナ
ルモノデアル。

上述ノ學說ハ近代ノ哲學的大系統、殊ニペー
ルグそんノ哲學并ニ其他じらゐる Girard ヤド
ー Gourd ヤドゝる Boutroux ナゾノ哲學

ニ實驗の基礎ヲ與ヘルモノデアル。べるぐそんハ全ク環境及ビ順應ニ還元ス可カラザル生ノ原本の飛躍或ハ衝動ヲ認メタ。彼ハ其名著『創造的進化』ノ中ニ左ノ如ク説イテ居ル。

進化ノ必要條件は環境順應デアルト云フコトハ余輩ノ全ク爭ハナイ處デアル。種ガ其ノ生存條件ニ從ハザルトキハ滅亡スルト云フコトハアマリニ明白ナ事實デアル。併シ外部的事情ハ進化ガ助定ニ入レネバナラヌ勢力デアルトコトヲ認メルノト、外部の事情ハ進化ノ指導の原因デアルト主張スルノトハ大ニ異ナツテ居ル。後ノ假説ハ即チ器械主義ノ假説ニシテ、原本的衝動ノ假説即チマスノ假説ニナリ行キ諸形態ヲ通過シテマスノ高等ナル運命ニ生ヲ推シ進メル内部の衝動ノ假説ヲ絕對的ニ排斥スルモノデアアル。

要スルニ生及ビ世界ヲ説明センガ爲メニ構想サレタル一切ノ哲學系統ハ結局ニ二大部類ニ彙類サレルコトガ出來ルト思フ。一ハ生、世界及ビ社會ノ進動ノ眞髓ヲ箇體或ハ箇人ニ於テヨリハ寧ロ環境ニ於テ求ムルモノニシテ、即チ唯物主義及ビ器械主義ノ諸系統デアアル。二ハ環境或ハ外部の因素ニ於テヨリハ寧ロ箇體、内部の因素ニ於テ求ムルモノニシテ、即チ唯心主義觀念主義ノ諸系統デアアル。而シテ此等ニ部類ノ何レニ屬

スル哲學系統ガ夫レ夫レノ時代ニ於テ勢力ヲ振フカハ、ツマリ其ノ時代ノ科學的研究ガ何レノ部類ノ思潮ニ實驗の基礎ヲ與フルカニヨリテ定マルノデアアル。然ラバ輓近ノ科學的研究ハ何レノ部類ノ思潮ニ實驗の基礎ヲ與ヘテ居ルカト云フニ、サキニ述ベシ處ニヨリテ察知セラルル如ク、唯心主義觀念主義ノ部類ノ哲學系統ニ實驗的基礎ヲ與ヘテ居ルノデアアル。輓近ノ科學的研究ハ環境ヨリモ箇體ニ、外部の因素ヨリモ内部の因素ニ重ミヲ置テ生ノ諸現象ノ説明ヲ試ミツツアルノデアアル。此クテ現今ノ哲學ハ主トシテ唯心主義觀念主義ノ方針ニ於テ發達シツツアルノデアアル。併シ余輩ノ知ル處デハマダ何人モ征服的或ハ勝利的勢力ノ概念ヲ精細ニ展開シテ居ラナイ様デアアル。殊ニ此概念ヲ經濟的事實及ビ人口法則ニ適用シテ此等ノ問題ヲ論究シタル人ハナイ様デアアル。是レ余ガ聊カ本論文ニ於テ之ヲ試ミントスル所以デアアル。(次號完結)